

そう
あれはぼくが
小学生のころ…

聞こえる時と
聞こえない時がある

そんな状況は
ぼくから
いるいるなものを
奪っていった

第2章 セカンドステップ

— 難聴者編 —

ぼくは笹屋拓海

生まれつき両耳が
ほとんど聞こえない

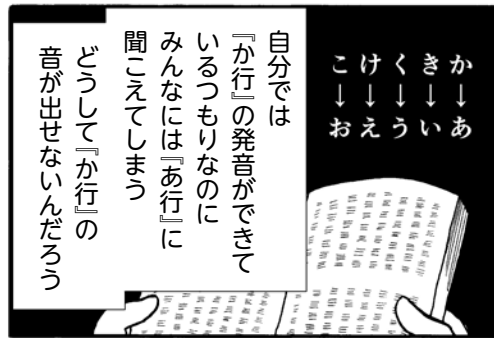
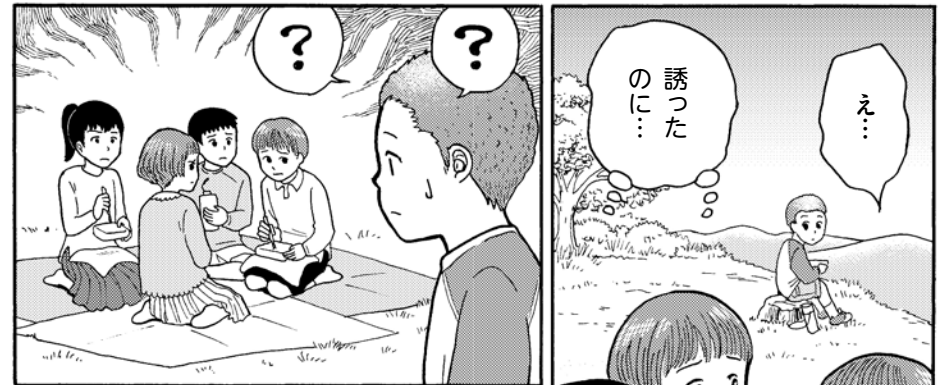
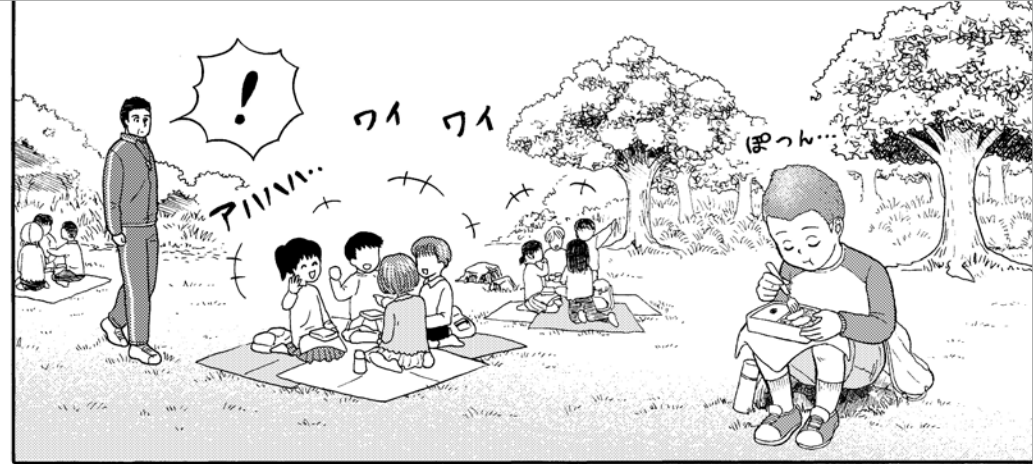
2歳のころから
まだ聞こえが
いい方の左耳に
※補聴器をつけている

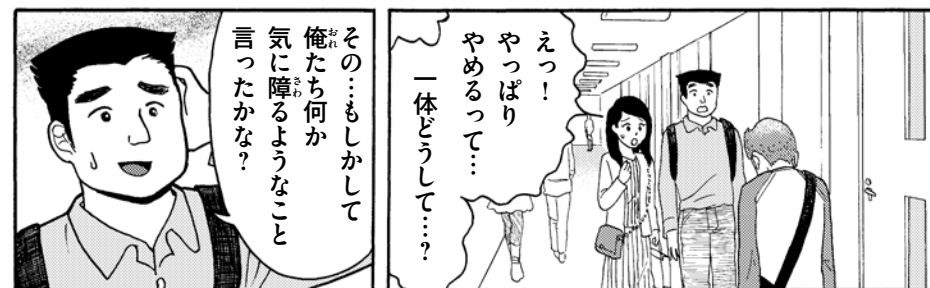
※補聴器をつけても完璧に
聞こえるようになるわけではない

ぼくの場合
しずかな部屋で
一対一や数名なら
話していることが
理解できる

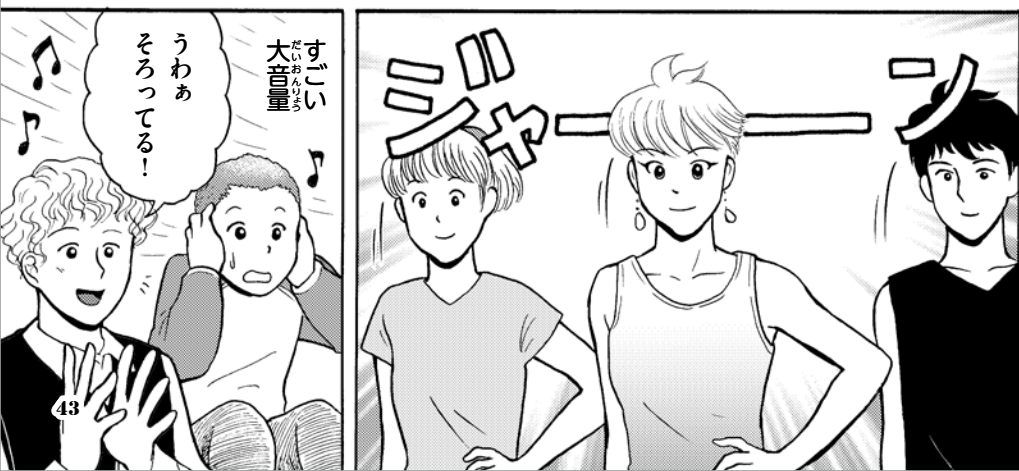
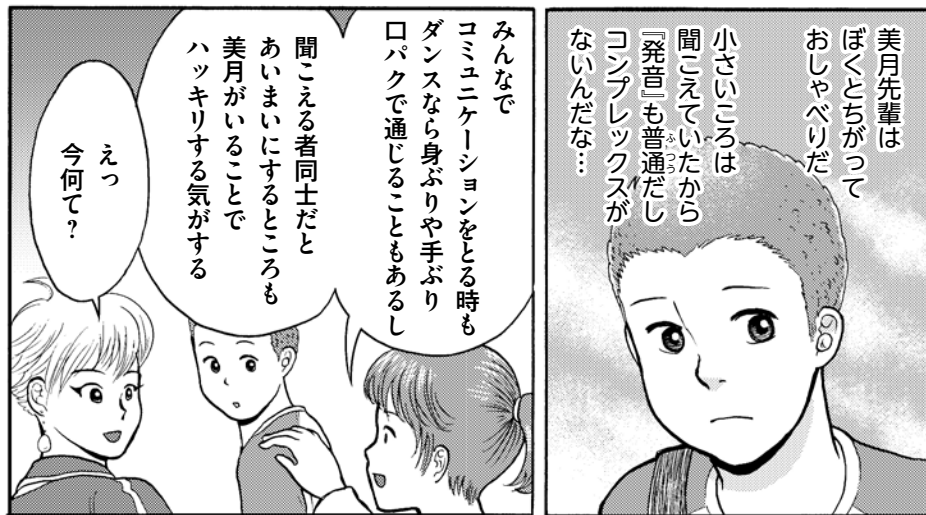
しかし
ガヤガヤした場所
大勢の人たちが
一気に話すと

だれが何を
言っているのか
わからなくなる











美月先輩
すごい……

楽しそう

すごい！
みなさん
上手ですね

ピタッ

パチ
パチ

ありがと……

あー拓海くん
大丈夫？

音で
気持ち悪く
なっちゃった？

は、はい
ちょっと……

私は平気だけど
人によっては
大音量の音は
頭の中で反響して
かえって
聞きとりにくく
なる人もいるの

誤解されがちだが
難聴者だから、と
耳元で大声で
しゃべれば通じる
とは限らない

もう
大丈夫です
先輩すおい
ダンス上手ですね



聞こえにくく
なってる

あきいめなびや
いけないことが
たくさんあったの

だからせめて
できることは
必死に
しがみついちやうん
だよ

美月先輩に
出会って
思った……

ぼくは自分で
可能性をせめて
いたのでは
ないか？

山登りも
ほくにはできるわけ
ないと思ひ込んで
いたのではないか？

自分の難聴を
治す方法は
絶対はない
……と

決めつけて
いたのでは
ないか？

手術 伝音難聴

ぼくは
耳鼻咽喉科の
病院に通い始め

専門医の
先生から
いろんな
説明を受け
家族や
サークルの先輩
美月先輩にも
相談に
のってもらい

鼓室形成術
という手術を
受けることに
なった

手術中

そして

術後
すぐには
変化が
なかったが
2日後……

あ……
あ!!

右耳が……
聞こえる！

しかし
さらに2日後……

ぼくの聴力は
元の状態に
つまりまた
聞こえなく
なってしまった

担当医の先生の
説明によると
人工骨が
外れてしまった
可能性が高いという

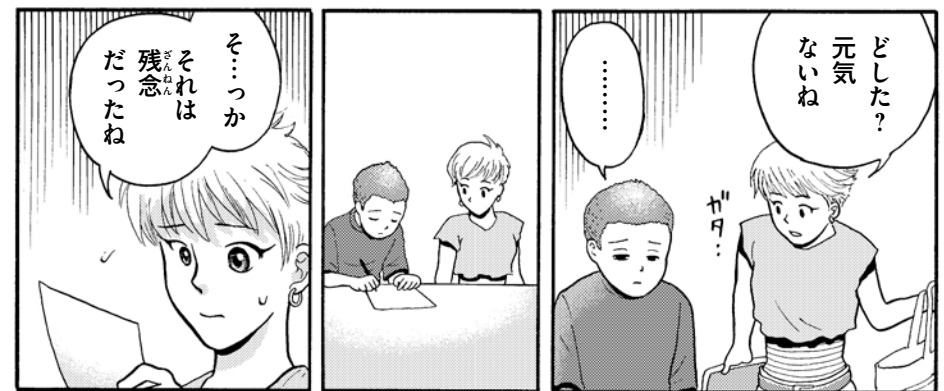
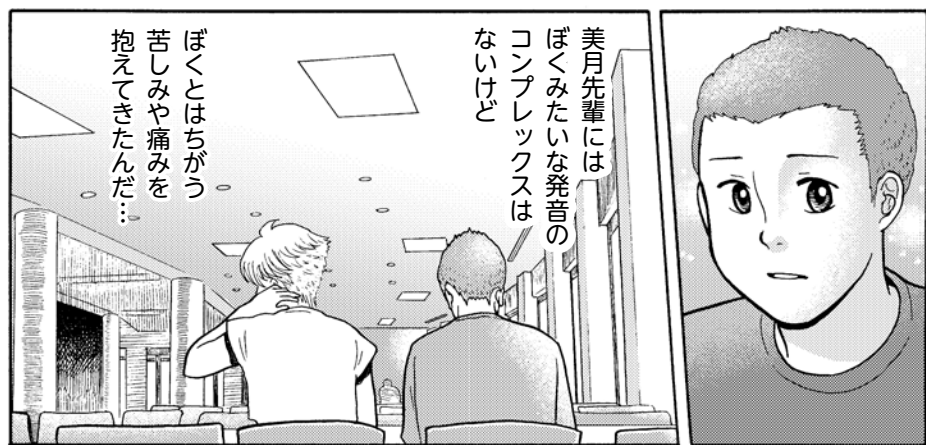
ぼくも両親も……
期待していた
だけに
失望が大きかった

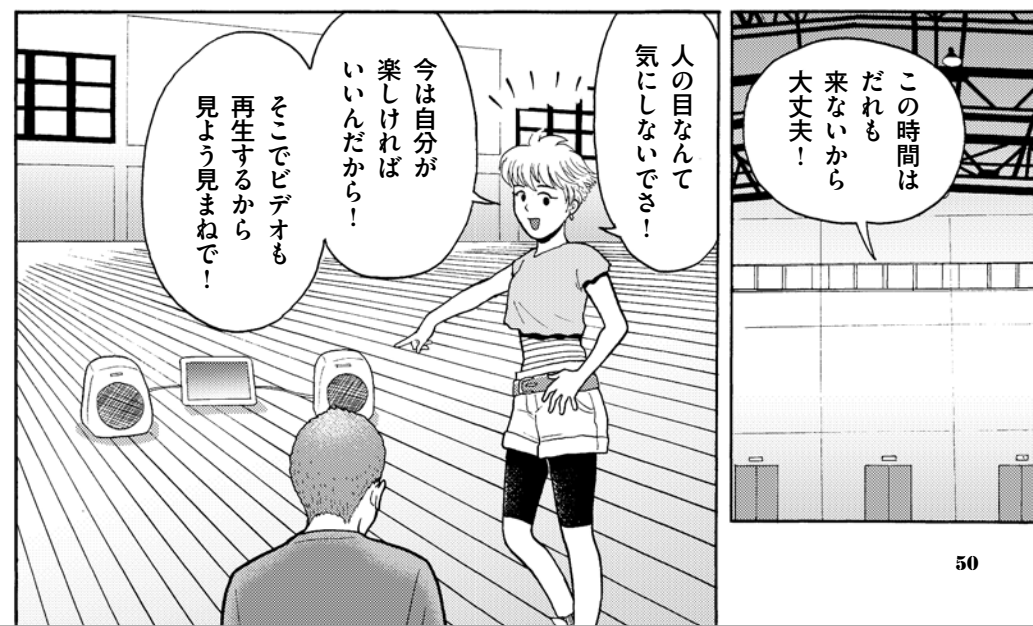
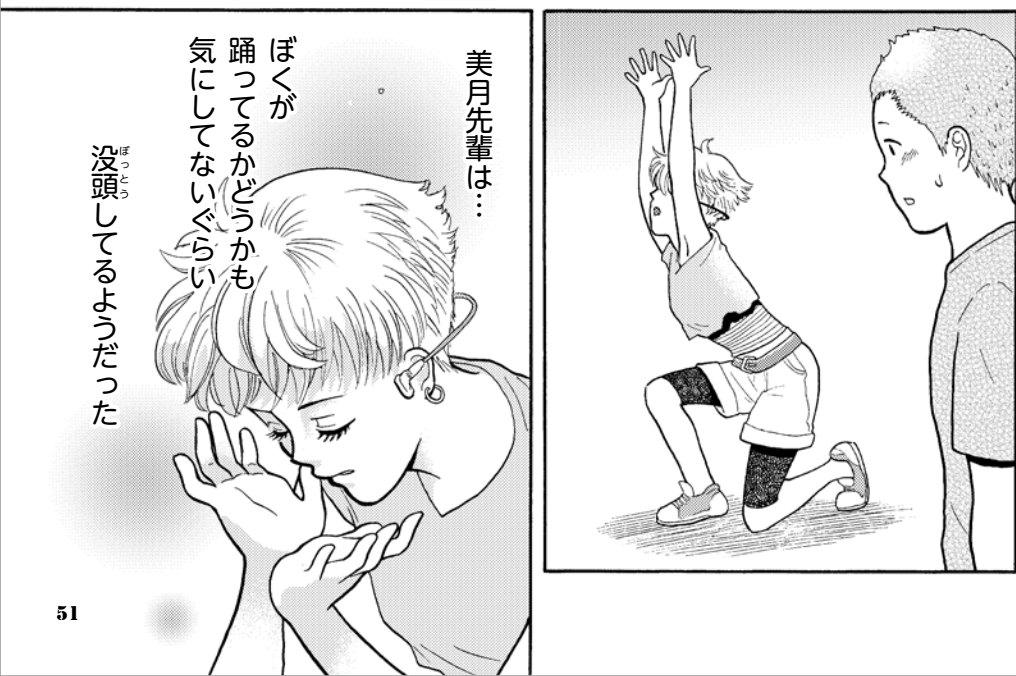
最初から
手術なんて
しなれば
よかったの
かもしれない
……

学生食堂

やっぱり
ぼくなんか
がなばつても

ダメなんだ

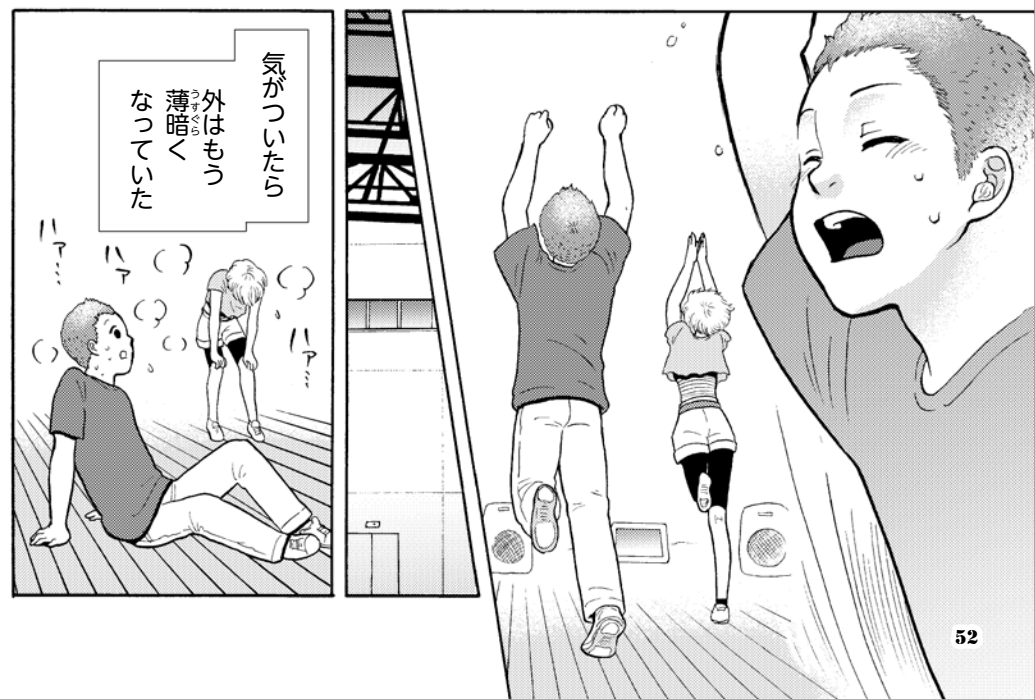
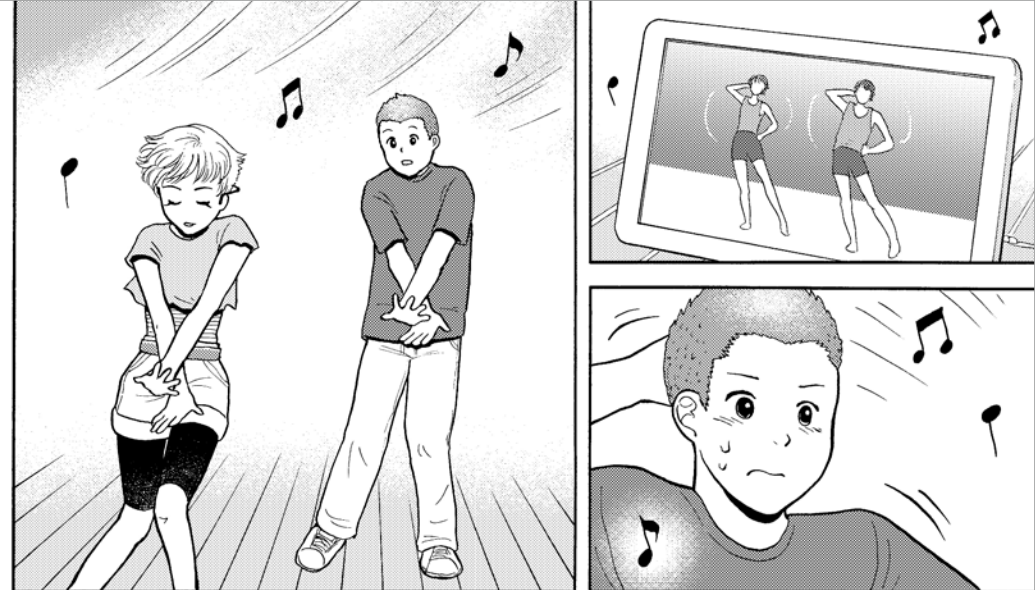


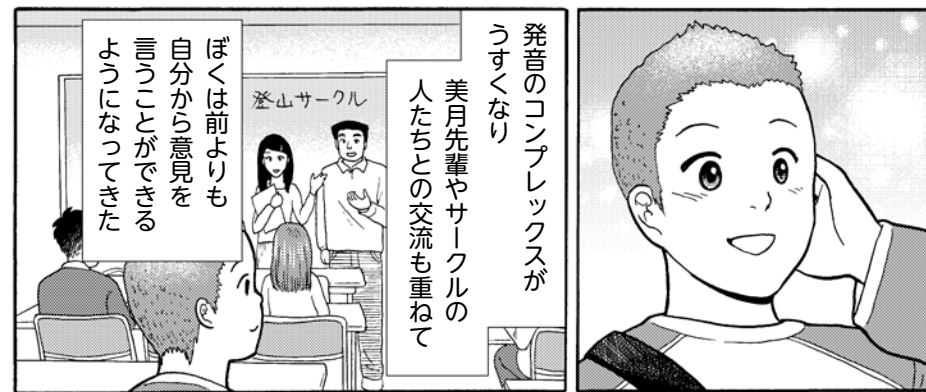
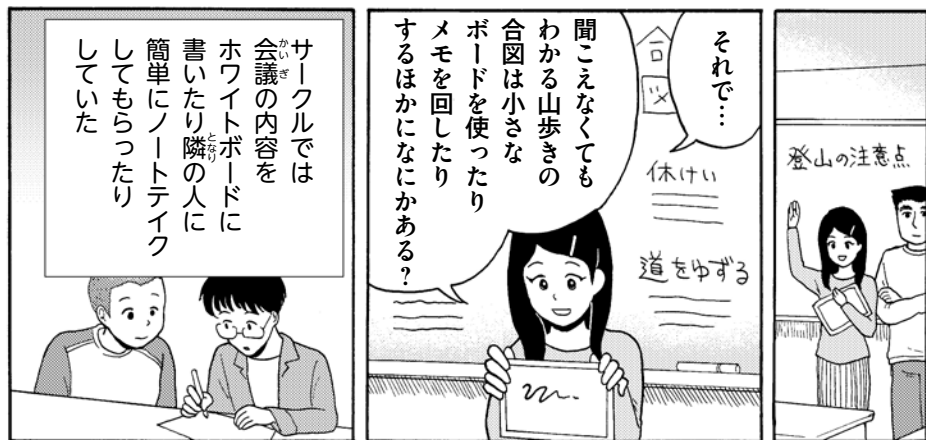


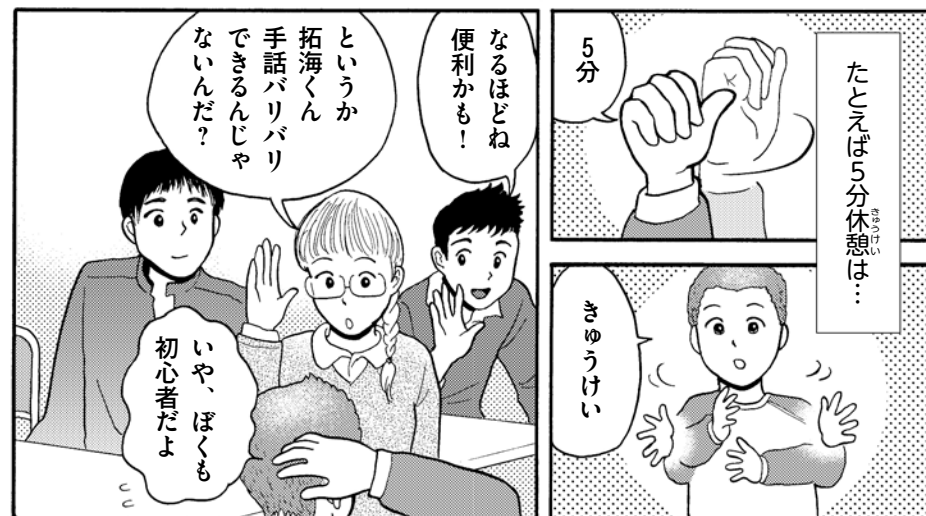


ぼくだってくやしい...

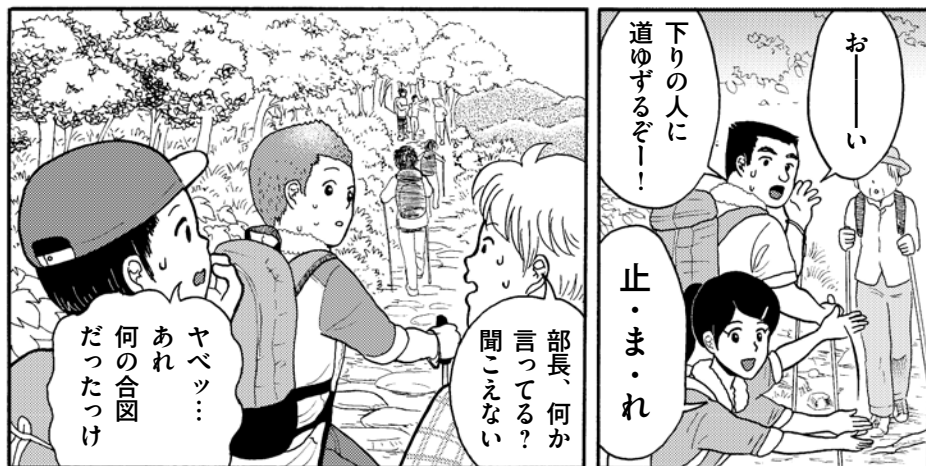
ぼくにできることは 本当にもう何も ないんだろうか?

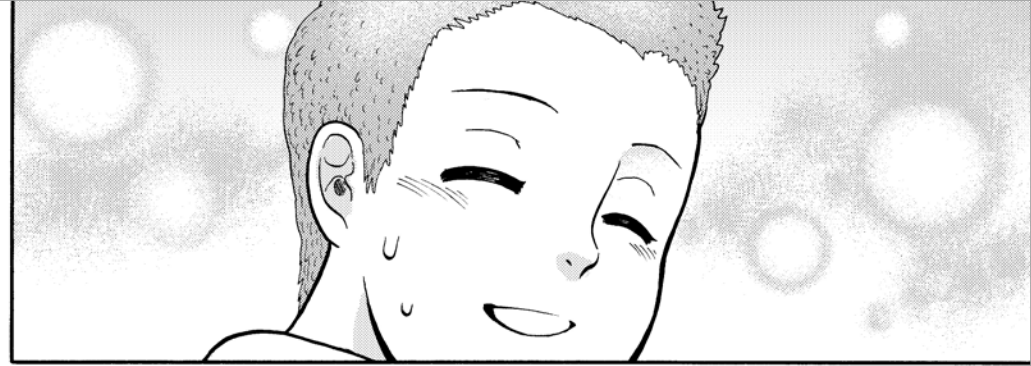






※筆談や補聴器など





自分を変えたい
そう思ってから

望む^{のぞ}とおりには
ならないことも
あったけど

ぼくの気持ちに
賛同^{さんどう}して
助けてくれる
人たちがいた

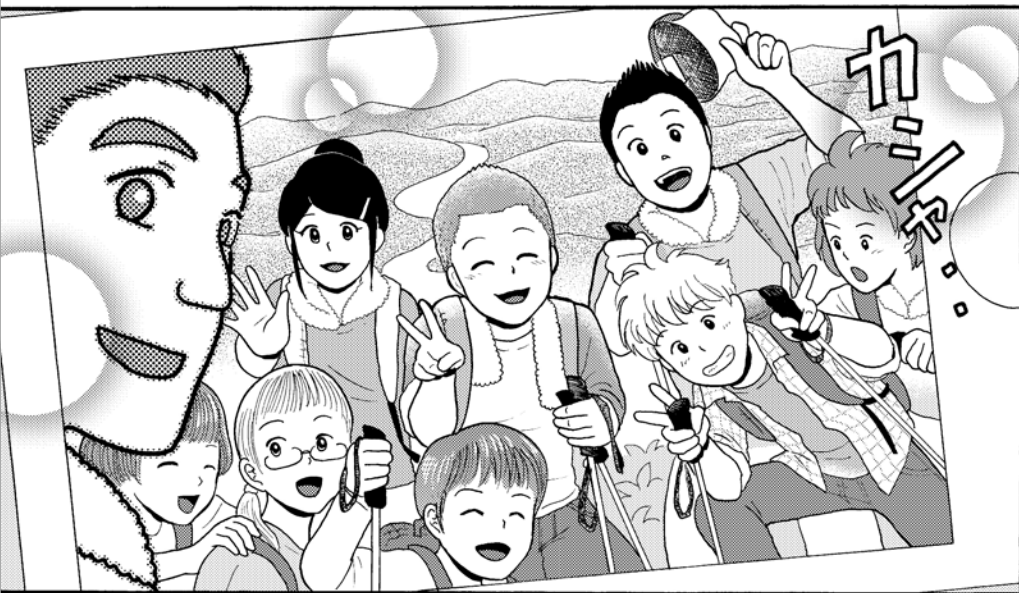
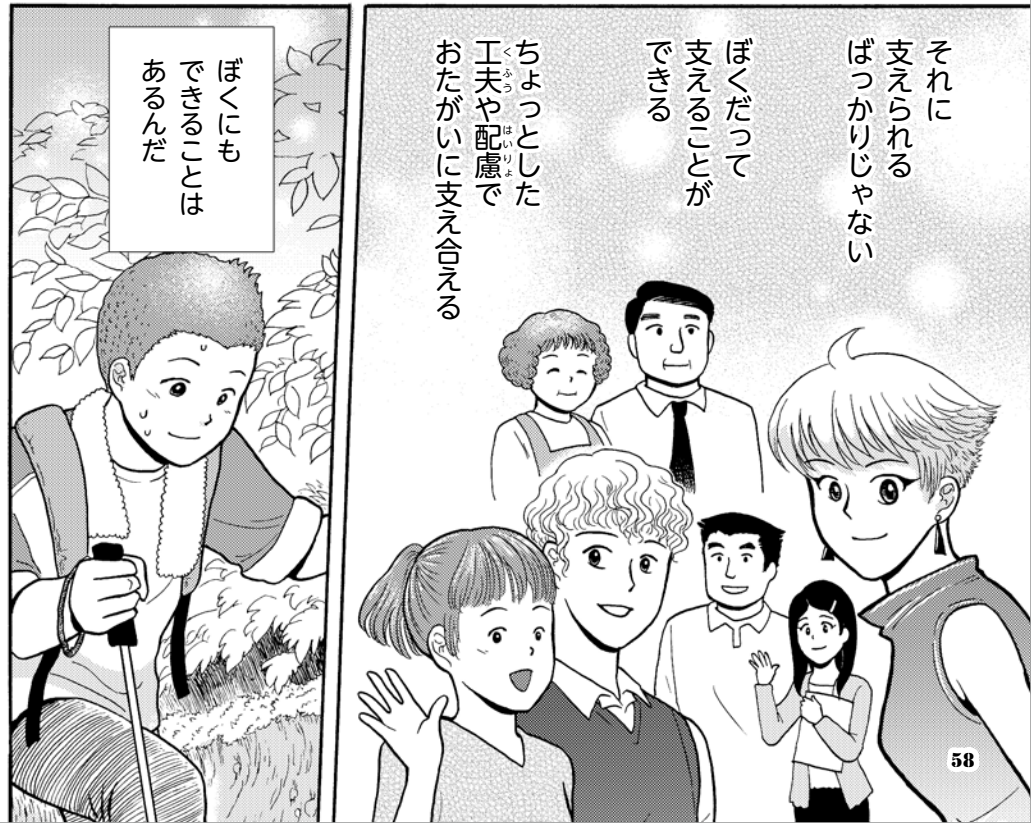
サークルの仲間
美月先輩
ノートテーカーの
芝山先輩や
永田くん…

それに
支えられる
ばっかりじゃない

ぼくだって
支えることが
できる

ちよつとした
工夫^{くふう}や配慮^{はいりょ}で
おたがいに支え合える

ぼくにも
できることは
あるんだ



これからも
自分らしく
楽しみながら

いろんな
ことに
挑戦^{てんげん}して
みよう!

おわり

様々なコミュニケーション方法があることを学びましょう



手話

手指・表情の動きで成り立つ言語。



身ぶり

体を動かし意思を伝える。ジェスチャー。



筆談

紙やスマホ等を使い、文字を書いて伝える。



空書

指を使って、空中に文字を書いて伝える。



口話

音声会話。口の動きを読み解くことも。



補聴器

聴力を補う機器の使用。

※聴覚障がい者は、みんな手話ができるわけではありません。

※その人に合ったコミュニケーション方法を聞きましょう。場合によっては、複数を組み合わせてコミュニケーションをすることもできます。

※マスクを外して、口元を見せましょう。

要約筆記を知っていますか？

話の内容をその場で文字にして伝える方法で、すべてを文字化することはできないため、話の内容を要約しながら(要点をまとめながら)書いていく支援方法です。



ノートテイク

一対一など、少人数の場合に用います。機材も必要ないため、どこでもすぐに行うことができます。



OHCなど機器を活用

講演会や研修会などで、スクリーンに映し出して行います。一度に大勢の方が見ることができます。



パソコン要約筆記

パソコンを使うので、文字を最も多く映すことができます。また手書きに比べて、字のクセもないので、見やすい場合が多いです。

補聴器を使っている人には、こんなことに気をつけましょう

●補聴器を使えば、すべての声や音が、きれいに聞こえるわけではありません



①ほとんどの補聴器に、「聞きたい音」と「雑音」を区別する機能はありません

- 補聴器は聞きたい声や音だけではなく、まわりにあるすべての音も大きくします。
- また、聞こえ方も人それぞれで、聞き間違いをしてしまうときがあります。

可能ならば、静かな環境でお話しましょう

早口ではなく
ゆっくり話し
相手の理解を確認
しながら進める

マスクは外して
口元を見せる

基本的には普通の音量で。
ただし相手に要望を
確認しよう

いちがつ(1月)と
しちがつ(7月)
びょういん(病院)と
びょういん(美容院)など、
聞きわけがむずかしい言葉は
メモも活用して

②補聴器を使っている人と会話するときは…

- 相手の状態をしっかり確認しながらお話ししましょう。
- 「耳元で大声を出せば伝わる」わけではありません。

向日市要約筆記サークル「フレンド」



「フレンド」は平成6年結成の要約筆記ボランティアサークルです。中途失聴者・難聴者の「耳」代わりとして活動し、難聴者協会の様々な催しでの情報保障・交流、「政見放送を見る会」での要約筆記、映画の字幕付や要約筆記の学習なども行っています。例会は、毎月第2・4水曜日13時半～向日市福祉会館で開催(第4水曜日は難聴者協会との合同例会)。会員は19名で、「難聴者の皆さんとフレンドリーに」を心がけ活動しています。